

学校再編に係る生徒ヒアリングの結果

1. 概要

1) 目的

学校再編を実施するにあたって子どもの意見を反映した計画を策定するために、実際に学校に通っている全ての中学校区の生徒に対して学校生活や望ましい学校規模、小中一貫校に関する意見を確認しました。

2) 実施日

下記の日時で各中学校の5～8名の生徒を対象にヒアリング実施しました。ヒアリングの対象者については学校側に調整を依頼し、市内全小学校出身者を対象としました。

表 実施概要

ヒアリング実施中学校	参加者数	日時
緑陽中学校	8名	令和8年6月15日12時50分～13時25分
鵜沼中学校	5名	令和8年6月16日15時45分～16時30分
稲羽中学校	5名	令和8年6月23日12時50分～13時25分
川島中学校	5名	令和8年6月24日12時45分～13時25分
中央中学校	6名	令和8年6月25日12時30分～13時05分
蘇原中学校	6名	令和8年6月29日14時45分～15時15分
桜丘中学校	7名	令和8年7月 3日12時45分～13時20分
那加中学校	5名	令和8年7月13日12時30分～12時55分

3) 設問項目

設問項目については生徒が回答しやすいように下記の内容を簡単に質問しました。

1. 自分にとって学校はどういうところか
2. 学校生活で楽しいことはなにか
3. 学校規模はどれくらいが良いか(1学年何クラスくらいが良いか)
4. 小中一貫校(義務教育学校)についてどう思うか

2. ヒアリング結果

ヒアリングした結果、以下のような意見をいただきました。

1) 自分にとって学校はどのようなところか

友達との会話や集団生活を通じ、他者との信頼関係やコミュニケーション能力を築く場であるという意見が多く生徒から寄せられました。また、単なる学力向上だけでなく、新しい知識を得たり、様々な人の意見に触れて成長したりする場として認識されている様子がみられました。合わせて社会に出る前のステップとして、集団行動のルールや礼儀を身につけ、自立に向けた準備をする場としても捉えられています。

【主な意見】

- ・違う学年の関わりを通して、人間関係を築く場である。
- ・勉強も一人ではなく、みんなでできる場であり、コミュニケーションを取る場である。
- ・仲間とのコミュニケーション力を育む場である。
- ・友達と学校行事を通じて青春する場である。
- ・様々な意見や考え方が交わる場である。
- ・1つの事柄に対して、様々な視点で見ることができる場である。
- ・生徒会活動などやりがいを見つける場、勉強する場である。
- ・みんなで学ぶ場、学校でしかできないことをする、人と楽しんで交流する場である。
- ・大人数でコミュニケーションを取ることは学校でしかできないことであり、それらを行いながら、自立するための準備をする場である。

2) 学校生活で楽しいことはなにか

休み時間の雑談や昼休みに一緒に遊ぶことなど、日常的な友達との交流が最も楽しいという声が多数挙がりました。また、体育祭や合唱などの学校行事において、クラス全員で団結して一つの目標をやり遂げ、達成感を味わうことにやりがいを感じている声が多く聞かれました。さらに毎日の授業で仲間と意見を交わしたり、みんなで給食を食べたりする何気ない時間も楽しい要素として挙げられました。

【主な意見】

- ・休み時間に友達といること。
- ・クラスみんなで何かを頑張り、ミスしても楽しく笑って過ごせること。
- ・昼休みにみんなと遊ぶこと。
- ・みんなで練習して1つの目標に向かう体育祭。
- ・コミュニケーションや給食、体育の時間。
- ・友達や先生との会話。
- ・友達と一緒にいる時間。
- ・体育祭といった行事での楽しさや達成感を分かち合えること。
- ・修学旅行などを計画し、より良いものにするなど、学び合うこと。
- ・昼休みにいろいろな人と話すことや部活動などで人と関わること。
- ・友達と話す、得意を伸ばし、苦手を克服できたとき。

3) 学校規模はどれくらいが良いか(1学年何クラスくらいが良いか)

多様な意見に触れ、新しい友人を作るために、1学年あたり3～4クラス程度の複数のクラスがちょうど良いという意見が大半を占めました。クラス替えは新しい出会いや発見を生むため、学校生活における楽しみの一つとして肯定的に捉えられています。また、1クラスのみ小規模な環境は、人間関係が固定化され、人間関係のトラブルがあった際に対応しづらいという不安が挙がりました。一方で人数が多すぎると、知らない人が増えたり、先生の目が行き届かなくなったりする課題が指摘されました。

【主な意見】

- ・3～4クラスくらいが良い。1クラスだけだと仲間との交流が減ってしまう、逆に多すぎても仲間が分からない。
- ・3～4クラスくらいが良い。1クラスだけだといじめが発生したときに対応できない、多すぎると友達と離れ離れになってしまう。
- ・今の学校規模(1学年5クラス)が良い。小学生の時は学級数が少なく、刺激が少なかったように思うが、今は仲間と競い合うことができている。
- ・4～5クラスくらいはあると良い。クラス替えていろいろな人と関わることができる、これ以上増えると知らない人が増え、少なすぎると限定されてしまう。
- ・今くらいの学校規模(1学年2～3クラス)が良い。多すぎると先生の目が届かないのではないかと、人数が少ないと相手がよくわかる。
- ・中学校進学時に、環境に慣れるのが大変だったため、3クラスくらいが良い。
- ・1クラスしかないクラス替えができず同じ人同士になってしまうため、複数クラスが良い。また、学年での行事などがやりやすいよう、偶数のクラス数が良いと思う。
- ・クラス数が少ないと同じメンバーで過ごすことになるため、複数あった方が良い。ただし、多すぎるとまとめるのが難しいと思う。
- ・今くらい(1学年7クラス)が良い。クラス同士の競争力も高まり、団結力がある。
- ・小学校のときは1学年2クラスであったが、少ないと感じている。学級活動などでみんなの様々な意見を聞くことができるため、今くらい(1学年7クラス)が良い。
- ・今くらい(1学年6クラス)が良い。多すぎると知らない人が増え、少ないとクラス替えができなくなる。
- ・人数が多い方が学校生活は楽しいと思うし、できることも増えると思う。
- ・小学校の時は1学年1クラスであったため、担任が誰になるか楽しみだった。中学校に進学してからは担任に加え、クラス替えも楽しみになった。ただし、多すぎると関われなくなる子が出てきてしまうと思う。
- ・小学校は1学年1クラスであったため、中学校に進学し楽しみが増えた。
- ・小学校は6年間ということもあり、ほとんどの子と話すことができたが、中学校は1学年6クラスあり、知らない人が増えた。ただ、いろいろな人と出会う楽しみがあり、いろいろな考え方があることが分かった。
- ・中学校は関わるできない子もいるが、小学校はほとんどの子と話すことができた。話す機会としては小学校くらいの方が良いが、行事としては人数が多い方が楽しい。

4) 小中一貫校(義務教育学校)についてどう思うか

● 肯定的な意見

①学習・教育面でのメリット

9年間の継続的なカリキュラムや指導体制により、全体的な学びの質が高まり、中学校で高度になる学習内容にもスムーズに対応できるという期待が聞かれました。また、小学校段階から教科担任制などの専門的な授業を受けられることが評価されています。低学年の児童が年上の生徒から勉強を教えてもらえたり、校内に小学校の先生がいることで勉強に不安のある児童が安心して学べたりする利点が挙げられています。さらに年上の生徒の作品や活動する姿を間近で見ること、下級生にとって身近な目標や手本ができることが挙げられています。

②異学年交流と成長・人間関係の構築

1年生から9年生までの多様な学年と関わることで、学校生活の楽しみが増し、新たな人間関係を築くことができると捉えられています。また、上級生は下級生の面倒を見ることで成長でき、下級生は年上の存在から安心感を得られるため、双方にメリットがあるという声がみられました。

③環境変化への不安軽減(中1ギャップの解消)

自身も不安を感じた小学校から中学校への環境の大きな変化がなくなり、不登校の一因とされるギャップや進学時の不安が大幅に軽減される点が強く支持されています。また、9年間同じ仲間や馴染みのある環境で過ごせるため、落ち着いて学校生活を送ることができるという意見もみられました。

④学校生活・行事の活性化

人数が集まることで学校全体が活性化し、よりにぎやかで活気あふれる環境になるという意見が多くみられました。また、運動会や体育大会などの行事が盛大になり、人数が増えることで集団活動で取り組める内容や選択肢が広がるという意見もみられました。

⑤家庭・保護者へのメリット

9つの学年が同じ校舎・施設にそろうことで、兄弟がいる家庭での授業参観や学校行事への参加など、保護者の移動やスケジュールの負担が減るという視点もみられました。

● 不安・懸念事項

9学年全体を牽引し、行事などをまとめる最上級生(9年生)への負担が非常に大きくなることを心配する意見がみられました。さらに現行の小学6年生の段階で経験できるリーダーシップの機会が失われることへの不安が挙げられました。中学校進学時に新しい友達と出会う楽しみが減ることや、小学校からの人間関係を一度リセットできないことへの不安がきかれました。また、1年生と9年生の間の体格差や考え方、生活リズムの違いから、トラブルへの発展や接し方の難しさを懸念する声もみられました。さらに学校再編に伴って通学距離が長くなる不安や、中学生に対してもスクールバス等の通学支援を求める具体的な要望もみられました。

【主な意見】

- ・他の学年との交流が広がることや、中学進学時の不安が減ることからとても良いと思う。
- ・義務教育学校は楽しそうであると感じる。小学1年生のころ、6年生の子に遊んでもらえた楽しい思い出があり、それが9年間となるとさらに楽しみが増える。
- ・小学1年生から見ると、手本が学校にいて、9年生から見ると下の学年の面倒をみることができ、義務教育学校は楽しそうである。また、9年間の一貫教育により、中学校からレベルアップする学習にも対応できそうである。
- ・義務教育学校となり、人数が増えることで、交流する年齢幅も広がるため、できることが増えるのではないか。
- ・年齢に幅があるため、学校生活は大変そうであるが、小さい子との接し方を学ぶことができると思う。
- ・低学年の子からすると、年の離れた高学年の子がいることは安心感につながるのではないか。
- ・9学年が同じ施設にすることで授業参観などの保護者の負担は減るのではないか。
- ・様々な年齢での関わりが生まれることは良いと思うし、小学校の先生が学校の中にいることで、勉強が苦手な子は安心できるのではないか。
- ・人数が増えることで集団活動などできることが増えることや、低学年の子が勉強を教えてもらうことができるのではないか。
- ・教科担任制が小学校からできることや、年齢に合わせた活動を先生や前後の学年の子どもたち全員が見ることができることはとても良いと思う。
- ・中学進学時の新たな出会いは無くなる一方で、年齢の違う新たな人間関係の構築ができると思う。
- ・中学進学時は環境が変わることに不安があった。仲間が変わらないのは良いと思う。
- ・9年間を一貫することで、学びはとても良くなると思う。ただし、学年差が大きくなるため、行事に差が出てしまい、物足りなさを感じるのでは。
- ・中学生と小学生が関わることで、新たな良さがありそう。中学進学時に新しい友達と会えないのは寂しいが、進学時の不安な気持ちは無くなると思う。
- ・最初に説明を聞いたとき、「いいな」、と思った。小中で交流でき、いろいろな人と9年間で関わるができることが良いと思う。
- ・小学6年生時のリーダーの経験が無くなり、いきなり9年生（中学3年生）でリーダーをすると大変そうである。
- ・中学進学時に新しい友達との出会いが楽しみであったので、それが無くなるのは寂しい。
- ・9年間仲間が変わらないのは、安心感があるが、新たな出会いがなくなり、コミュニケーション能力が育たないのではないか。
- ・小学校と中学校では、学校生活ですべきことが違うため、中学生が勉強しているときに、小学校の子どもが遊んでいると集中できないかもしれない。
- ・義務教育学校にすることで、不登校の要因の一つである環境の大きな変化がないことはとても良いと思うが、1年生と9年生との交流は考え方も違い、ギャップがありそうだ。
- ・尾崎北エリアは、低学年の通学や中学生の自転車通学が既に大変であるため、スクールバスを出してほしい。
- ・学校の場所が変わると、通学環境も変わるため不安があるが、スクールバスがあるのであれば良いと思う。
- ・できれば小学校生活をリセットできる区切りがあると良い。

5) その他

学校再編については、保護者や教員から進捗状況を聞いている生徒や自ら学校再編に係る市ウェブサイトを見てヒアリングに参加する生徒もあり、新しい学校となることを楽しみにしている、といった意見がありました。特に小規模な小学校出身の生徒は、小学校時のクラス替えの無い環境と現在の中学校の環境を比較し、友達の多さなどを感じており、一定規模の確保は必要であるという意見がありました。尾崎小出身の生徒からは隣接する那加第一小との統合や学校区の再編をした方が良いのではないか、という具体的な意見もありました。